

第5学年 総合的な学習の時間学習指導案

児数数 55名

指導者 犀川 雄創

本多 翔

1 単元名 私たちの米づくり ～未来へバトンをつなげよう～

2 単元について

5年生の子供たちはこれまで総合的な学習の時間で地域の魅力を調べたり、地域の環境を守るために自分ができることを実践したりする学習をしてきた。探究的な活動を重ねる中で、課題解決に向け、必要な資料を用いて調べたり、まとめたりする力を付けてきた。しかし、収集する情報の多くはインターネットや、図書資料等を頼りにする子供が多かった。その結果、子供たちがまとめたものには、自分の感情や思いが表れにくかった。総合的な学習の時間で学んだことを、今後の生活に生かしたり、学んだことを通して自分自身の生き方を見つめ、見直したりするためには、子供たちが全力で「嬉しい」「楽しい」「悔しい」「悲しい」と感じることができるよう、心に残る体験や、「最後まで自分たちでやり遂げた」という経験を積み重ね、それをまとめ、表現することが重要であると感じた。

本単元は、米作りを中心に行うが、種もみの発芽から米の収穫までの作業を全て自分たちで行う。「米作りには八十八の手間がある」と言われるように、水の管理や害虫対策等、日頃の世話が必要になる。責任をもって最後まで米を育てることで、日本の食料生産を支える農家の苦労や願い、やりがいを実感するとともに、自分たちの取組をまとめ、下級生に発信していく活動を通して、今後の農業と自分との関わりや、生き方について考えを深め、食料生産を支える一員としての自覚をもって生活することをねらいとしている。

そこで本学習では、グループ別にトロ箱での米作りを行う。グループごとに、どのような米を育てたいのか願いをもち、子供の願いに沿って活動を進めていく。水田で行う米作りと同様に、多くの作業を必要とするが、作業にかかる労力や育て方の違いから、グループによって収穫量に差が生まれることが予想される。例えば、水田であれば用水を利用できるが、トロ箱では、各自バケツやじょうろで水を汲み与える必要がある。また、雨天時にはトロ箱にたまった水を自分で排水しなくてはならない。さらに、害虫を防ぐために農薬を撒くのか、日当たりを考慮してトロ箱の設置場所をどこにするかについても、各自の判断に委ねられる。自分たちが米作りに対して背負う責任が大きくなる分、米作りがうまくいき、収穫できたときの喜びや、うまくいかなかったときの悔しさも大きくなると考える。このように、子供たちが思いや願いを込め、苦労や手間をかけた分、収穫した米を食べる経験は、忘れられないものになるだろう。この経験からの学びは大きく、農業に対する考え方が変化したり、深まったりするのではないかと考える。こうした子供の成長を期待し、教師は必要に応じて子供たちが必要とした農具を準備したり、地域の農業の達人から学ぶ機会を提供したりして、米の世話の選択肢が増えるようにサポートする。また、その時々思いを各自が書かためていく場を設けることで、子供一人一人の活動と思いの変容を見取り、必要に応じて助言したり、その子供のよさを広げる聴き合いを適宜取り入れたりする。

3 単元の目標

自分たちの米作りに対して思いや願いをもち、仲間と協力し合いながら追究し、解決する中で、農業に対するやりがいや、農家の苦労、楽しさを感じるとともに、自分たちの取組を下級生につなげるために発信していくことを通して、今後の農業と自己の関わりや自分の生き方について考えを深めることができるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①稲の育成にはいろいろな方法があることを知るとともに、そこに込められた願いがあること理解している。【知識】	①米作りの知識を深め、自分が願う米作りに向けて、自分が取り組んでいきたいこと見付けたり、解決に向けて見通しをもったりしている。【課題の設定】	①友達の活動や考え方を認め、地域の方の考えを取り入れながら、自分の活動を見直し、試行錯誤して取り組もうとしている。【自己理解・他者理解】
②自分が願う米を作るために、栽培の工夫や注意点等を、必要な資料を用いて調べている。【技能】	②収集した米作りに関する多様な情報を分類・整理し、米の生育に生かすことができる。【整理・分析】	②米の収穫に向けて、自分の意志で課題の解決に取り組んだり友達と協力したりしている。【主体性・協働性】
③米作りを通して自分の成長を実感したり、地域の農業に対する愛着を深めたりしている。【探究的な学習のよさの理解】	③米を観察して分かったことを基に、自分達の米の状況に応じた世話や対処方法を実践している。【整理・分析】	③自分たちも食料生産を支える一員として、農業について考えたり農業人口を増やすために、積極的に関ったりしている。【将来への展望】
	④米作りを通して感じた自分の成長や農業の魅力について、伝える相手や目的に応じて自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。【まとめ・表現】	

5 研究主題との関連

研究主題

個別最適な学びを通して主体的に学ぶ子供の育成
— 自啓教育を核とした授業実践を通して —

視点1 主体的な学びにするための工夫

(1) 主体的に学ぶための単元計画の工夫

- ① 主体的に米作りに取り組むことができるトロ箱を用いた米作り体験
子供たちにかかる負担や責任は大きくなるが、収穫の喜びや、上手くいかなかったときの悔しさ、農業の大変さを実感できると考え、トロ箱を用いた米作りを行う。そして、それぞれのグループで設置場所や農薬散布の有無等、米作りの過程においての自己選択・自己決定・自己評価ができる場を設定する。
- ② 主体的な米作りを支えるゲストティーチャーの活用
自分たちが願う米作りに必要な情報を資料で調べるだけでなく、地域の米作りの専門家に直接話を聴く機会を設ける。その際、農薬を使用して効率的に米作りを行うJAの営農指導員と地域に住む農薬に頼らない自然農法を営む農家の方の話を聴く。異なる立場の方から話を聴くことで、視野を広げ、自分たちの米作りに生かすことができるようにする。また、必要に応じてトロ箱を見てもらい助言をもらうことで、最後まで自信をもって米作りができるようにする。

③ 自分の成長を感じながら、次の活動につなげる工夫

米作り体験による農業に対する考えの変容や、これまでの努力、自分自身の成長をメタ認知するために、2次で自分たちの活動を振り返り、米作りの意義や、やりがいを感じ合った後に、「来年の4年生に米作りを続けてもらえるように働きかけよう」と投げかける。「4年生に来年も米作りをしてもらうために、どうすればいいか」と考える中で、「来年の5年生が成功するように自分たちが難しいと感じたポイントをまとめたい」、「自分が感じた米作りの魅力を分かりやすく伝えたい」など、一人一人が課題をもつことができるようにする。

(2) 子供が自己調整しながら学んでいくことができる学習環境の工夫

・自分たちの米作りのあゆみを振り返る「わたしたちの米づくり年表」の掲示

米作りに対する達成感を感じたり、自分たちの米作りを見直して改善したりするために、「わたしたちの米づくり年表」を掲示する。年表には、これまで作業内容や、大変だったこと、各グループの努力の様子を記載することで、それぞれの思いの変容について認知できるようにする。

視点2 協働的な学びにするための工夫

(1) 子供にとって必要感のある対話や協働的な学びを単元計画や授業展開に位置付ける工夫

・合意形成を重ね、協働的に学ぶことのできるグループ編製の工夫

様々な選択や決断を友達に任せることなく、一人一人が米作りに対する思いをもち、それを伝え合い、協働的に米作りができるように4人1組のグループで米作りを行う。また、事前アンケートの結果を基に、多様な価値観の子供が混在するようなグループ編制を行う。米作りについて、多様な価値観がある中で、自分が挑戦してみたいことを、グループの友達にどう伝えるのか、どのように合意形成を図るのか、話し合いを重ねることで、協働的な学びの場が生まれると考える。

(2) 子供が互いの考え方や取組の姿勢に学ぶ聴き合いの場の工夫

① 共感的に聴き合う素地を育てる朝の聴き合いタイムの充実

聴き合ったことを基に、自らの取組を見直すために、全体で友達の多様な思いや考えに触れ、多様性や違いを認め合うことができるようにする。そこで、「朝の聴き合いタイム」に取り組み、共感的に友達の思いに寄り添い、理解する土台を育てていく。

② 事実を重ねながら思いを語ることのできる掲示物の工夫

自分たちの米作りを振り返る聴き合いの場では、自分が抱いた思いの背景を明らかにして話す手がかりとして活用できるデータ（各グループの収穫量や世話の記録等）を掲示する。

③ 振り返りの工夫

振り返りを通して自分の米作りの歩みや、米作りに対する思い、農業に対する考え方の変化を整理できるように、A4ノートを活用し、米の観察記録や、調べた情報、自分たちの取組等をスクラップ形式で自由に蓄積できるようにする。また、米の収穫後には、自分の努力と、米作りの成果を照らし合わせ、自分たちの活動を自分たちで総合的に評価できるようにする。

6 指導と評価の計画（全54時間）

次	時	学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第一次	1 ┌ 3	米づくりにチャレンジ① ・農業に対する自分の考えを伝え合う ・米作りに対する自分の課題をもつ			
	4 ┌ 10	・栽培計画を立てる ・米作りの準備をする(土作り・発芽・育苗) ・苗の観察、世話をを行う【理科】	① (ノート・発言・行動観察)		
	11 ┌ 16	・トロ箱への苗の移し替えをする ・「米作りの達人」の方の話を聴く ・「米作りの達人」の話を基に、自分たちの米作りの方針を決め、世話を続ける ・自分たちの願う米作りに向けて資料を用いて調べる		① (ノート・発言・行動観察)	① (ノート・発言・行動観察)
	17 ┌ 24	・各グループの米作りについて話を聴き合う。 ・聴き合いを基に、各グループで米作りについて新たな作戦を考える ・考えた作戦を実行に移す	② (ノート・発言・行動観察)	② (ノート・発言・行動観察)	
第二次 (本時※)	25 ┌ 32	米づくりにチャレンジ② ・夏休みの世話を振り返る ・収穫に向けて世話を続けたり、台風に備えたりする ・収穫する。(稲刈り→脱穀→乾燥→粃摺り→精米)		③ (ノート・行動観察)	② (ノート・行動観察)
	33 ┌ 37	・収穫した米を炊飯し、試食する【家庭科】 ・これまでの米作りを振り返る ・自分たちの米作りの価値について話し合う ※【本時】36/54	③ (ワークシート・発言・行動観察)		
第三次	38 ┌ 40	未来へバトンをつなげよう ・自分たちの米作り体験をどのように生かしたいのかについて話し合う ・伝えたいことについて考える ・日本の食料生産の今後について考える【社会】	④ (ノート・発言・行動観察)		
	41 ┌ 51	・自分が決めた課題について追究する ・4年生に効果的に伝えるための発表方法を考える【国語】 ・発表準備を行う		④ (ワークシート・発言・行動観察)	
	52 ┌ 54	・4年生に向けて自分たちの調べたことを発表する ・これまでの活動を振り返る			③ (ノート・発表、行動観察)

7 本時の学習（36/54時間） ※ 当日配付します